| 令和５年度(令和４年度実施事業分)主要事業評価シート | | | | | No. | 20-2 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| PDCA | 主要事業名 | 放課後児童健全育成事業 | 部課名 | 子ども未来部<br>子ども育成課 | 担当 | 豊田 |
| | | | | | 内線 | 403 |

## P 総合計画との関係性と予算根拠

総合計画： 1 － 1 － 1 単位施策： 子どもと子育て家庭

全体事業期間： 令和 4 年度 ～ 4 年度 全体事業費等： 285,479 千円

会計 一般会計 歳出科目： 03.02.02.12.50

**事業概要等**

| | |
|---|---|
| 事業概要： | 保護者が仕事等により昼間家庭に居ない小学生の放課後の適切な遊びや生活の場である放課後児童クラブの運営を民間事業所に委託する。 |
| 事業目的： | 保護者が仕事等により昼間家庭に居ない小学生に、放課後の適切な遊びと生活の場を与え、児童の健全な育成を図る。 |
| 事業内容： | NPO法人等の民間団体に事業を委託する。また、事業の着実な推進のため、事業所及び保護者に対して必要な補助金を支出する。 |
| 問題点・課題等： | 今後も共働き世帯等の増加に伴う利用希望児童数の増加が予想され、待機児童を防ぐための環境整備や学校施設内への公設化を推進する必要がある。 |

予算額 285,479 千円

財源内訳

市費 139,014 千円

国費 75,794 千円

県費 70,671 千円

その他 0 千円

**主要事業とする理由**

適正な委託運営のために、受託する各団体への補助金等の見直しや運営環境の確保及び事業の改善を図るため。

**得られる成果**

児童の健全育成につながるとともに、「小1の壁」の解消や、保護者の子育てと仕事の両立支援を図ることができる。

| 目標値や目指すべき状態 | | 令和２年度 | 令和３年度 | 令和４年度 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|
| 登録児童数 | 実績値 | 1,029.0 | 1,030.0 | － | 人 |
| | 目標値 | 987.0 | 1,089.0 | 1,093.0 | 人 |
| | 実績値 | | | | |
| | 目標値 | | | | |
| | 実績値 | | | | |
| | 目標値 | | | | |

予算見積書で活用

目標項目（予算計上時に作成）

## D 得られた成果と実績値

決算額 278,782 千円

**得られた成果**

放課後の児童の居場所を確保し、児童の健やかな成長に寄与するとともに、保護者の子育てと仕事の両立支援を図ることができた。

| 成果指標 | | 令和４年度 | 単位 |
|---|---|---|---|
| 登録児童数 | 実績値 | 1,074.0 | 人 |
| | 目標値 | 1,093.0 | 人 |
| | | | |
| | | | |

## C 課題の整理

事業の評価・課題

**B**

各事業所に対する指導体制の構築を図るため、国が示す「放課後児童クラブ第三者評価ガイドライン」に基づき作成したチェックシートを使って現地ヒアリングを実施することで、委託する放課後児童クラブの質の確保及び向上に努めた。
また、各事業所に障がい児の受入れに関するヒアリングを実施して、委託先である全20放課後児童クラブの現状と課題の把握に努めた。

## A 課題解決に向けた今後の方向性

今後の事業の方向性

**拡充推進**

児童が放課後に安全に小学校から放課後児童クラブ施設へ移動できるよう、小学校校舎の建替え工事等に合わせ、学校敷地内へ放課後児童クラブ施設を順次整備していく方針とする。

観点別評価

| 必要性 | | 有効性 | | 効率性 | |
|---|---|---|---|---|---|
| ①市の関与の妥当性 | 妥当 | ④上位施策への貢献 | 大きい | ⑦コスト削減余地 | ない |
| ②市民ニーズ | 高い | ⑤成果向上の余地 | ある | | |
| ③休廃止の影響 | 大きい | ⑥類似事業の有無 | ない | ⑧受益者負担適正化余地 | ある |

主要施策の成果報告書で活用

評価項目（決算時に作成）